

「湯西川ダム・思川開発促進」「全国学力テスト継続」意見書への反対討論

「湯西川ダム及び思川開発事業の建設促進を求める意見書」

私は、まず、議第11号「湯西川ダム及び思川開発事業の建設促進を求める意見書」に反対する意見を述べます。

湯西川ダムで本県は、治水の一部を負担することになっています。本来、鬼怒川の治水計画は、五十里、川俣、川治の3ダムで完結していました。そのことは、1985年に湯西川ダムを加えた4ダムの治水計画が策定されたにもかかわらず、鬼怒川石井地点での洪水ピーク流量の削減量が、毎秒2,600立法メートルと変わらなかったことから明らかであり、湯西川ダムの治水効果はありません。その後、国交省は、基本高水流量を過大に設定し直すなどして事業を進めてきましたが、科学的に再検証すべきです。鬼怒川の治水に必要なのは堤防補強と河川改修です。

利水では、宇都宮市が日量2万5,920トンの水道用水を買うことになっております。日本共産党宇都宮市議団は、生活用水の需要予測や生活用以外の有収水量の予測が過大見積もりであること、現在の保有水源は、合理的な予測による将来の最大需要を20%上回る日量24万トンのぼることを指摘し、新たな水源は必要ないと中止を求めてきました。それでもなお足りないとの科学的根拠があるのなら、水あまりの川治ダムの鬼怒工水を買っていただくのが、県民益、市民益ではないでしょうか。

さらに自然破壊の問題です。予定地には県立博物館によって確認された稀少地質である赤下の「風穴」があります。昔、湯治に行く旅人が冷風が吹き出す風穴で、涼をとったそうので、まさに秘湯にふさわしい自然の宝です。それがダム底に沈み、渓谷の豊かな景観も失われます。本県初の記録種であるクビワコウモリや、レッドデータブック掲載の猛禽類など貴重な動植物への影響が懸念されます。こうした宝を壊してダムをつくるのが県民益とは思えません。

思川開発・南摩ダムについては、今年3月9日の予算特別委員会で利水の問題点を指摘しました。そこで県南広域水道事業計画も全く白紙であることが確認されました。人口減少が明らかな上、使えない水を買う必要はありません。財政難の折、本県にとって、国の見直し表明は、おおいに歓迎すべきではありませんか。また南摩ダムは、ダム上流の集水面積が僅か12.4平方kmしかなく、水がたまらないダムと言われてきました。治水効果が下流域に及ばないこと、導水管工事などによる環境破壊も懸念されています。

以上述べましたように、日本共産党は一貫して2つのダムは治水も利水も必要性がなく自然を破壊し、県民に莫大な負担を強いるムダなダムであるの見直し・中止を求めてきました。新政権が2つのダム事業の見直しを表明したのは当然であります。

県議会としてとるべき態度は、やみくもにダム建設を求めるのではなく、国に対し、科学的検証と説明責任を要求すること、長年ダム問題で苦しめられてきた地元市民の生活再建や必要な地域振興に責任を持ち、そのために必要な法案をすみやかに提出するよう働きかけることです。よって本意見書に反対を求めます。

「全員参加方式による全国学力テストの継続を求める意見書」

つぎに議第12号「全員参加方式による全国学力テストの継続を求める意見書」に反対討論を行います。来年度から全国学力テストの全員参加をやめ抽出方式に切り替えるという鳩山政権の考えは妥当な判断です。教育現場ではテストの平均点を上げることにきゅうきゅうとし、その他の授業時間が削られる本末転倒な事態が起きています。さらに市町村では点数の公表をめぐる混乱がおきました。子どもたちにとっても採点結果が返されるのは数ヶ月後で、学力形成に役に立たないと指摘されています。学力の推移などを検証するためのデータの収集は抽出調査で十分です。

以上をもって、2つの意見書への反対討論といたします。